

# 「現代文五つの作業」の指導効果について

2007年2月13日

## 目的

説明的文章の読解において、筆者が強く主張するときに使われる特定の語に注目し、本文中にそれらの語が出現したら機械的に印を付けることによって、難解な文章であっても筆者の強調する点を発見すること。さらに、本文中にある、各設問に密接に関わる部分を迅速に発見すること。

## 作業の内容

1. 同語・同義語・同義文
2. 反意語・反意文・縁語

1、2とも、何らかの主張を述べるときには同じことを繰り返したり、主張に反する事柄を繰り返して否定することから、部分的に同語、反意語が集中するときに印を付ける

3. +、-

主張する内容には肯定的 = プラスイメージの語句を使い、主張に反する内容には否定的 = マイナスイメージの語句を使うことから、印を付ける。

4. 文の骨格をとる

長い一文の修飾語句を取り除いて主語、述語だけの文にし、意味をとりやすくする。

5. 規定語

否定語、強調語、順接・逆接接続語など、状況を規定する語句に印を付ける

## 効果

設問についての説明の際、どのようにすれば本文中から設問のヒントになる部分を見つけられるかの説明が容易になる。できる生徒もできない生徒も、国語の問題は「なんとなく」解いているので、「なぜその解答に至るのか」の説明ができないが、本文の論理の筋道を視覚的に説明することで一応の納得を得られる。

3の作業によって、選択肢の判別を迅速にできる。

4の作業は特に徹底することで、数学の文章問題など、他教科の問題の読み取りに応用できる。

自分で適当に傍線を引くより、決まった記号（印）を用いることでより読解作業の効率化が図れる。重要そうなところに傍線を引く生徒もいるが、傍線だらけになって必要な部分が判別できなくなったり、どの設問に関連した部分なのかが分からなくなり、二度手間になりがちである。

## 問題点

作業を列記したプリントの用語が難解。

作業そのものに習熟する時間が必要。

生徒が作業の効果を実感しにくい。

## 改善案

、 について

プリントの作り直し。だが、あまり簡単な言葉で説明しようとするとうるさい文章になって、かえって読みづらくなるおそれもある。むしろプリントを見ずに作業ができるよう、練習に重点を置いた方がいいと思われる。そこで、早い段階で国語法をある程度覚えさせる必要がある。4の作業をするにも、「主語・述語」「修飾語」くらいの用語が分からないと説明ができないからである。例えば5の作業の「逆接接続語」が分からずに列挙してある語群をいちいち探して印を付けているが、用語の意味が分かっていたら作業時間の短縮が見込める。

について

学校の試験は所定の問題集やプリントを暗記しておけば点数がとれてしまい、読解力の必要性を感じられない。そこで模擬試験を受けさせ、入試の場面では教科を問わず国語力が必要になることを理解させる。

また、数学の文章問題のように設問内容を的確に把握しても解法が分からずに不正解になってしまえば、生徒本人は「できなかった」と思う。まず設問の趣旨を掴むことが必要だと教えなければならぬ。

## まとめ

当初数学の文章問題対策として、4の作業を中心に指導した。その点ではTさんとSさんにもっとも効果が現れた。二人とも単元別問題であればそこそこは解けるが、模擬試験のようなランダムな出題になるととたんに分からなくなってしまう傾向があるので、「何を問わんとしている設問なのか」という視点を持つことが有効に働いたと思われる。

現代文の読解力向上については、まず文法用語を覚えさせることから始めざるを得ないため、長期継続的に授業時間をとるか、文法事項のみを短期集中して教える必要がある。個人的には、英語力の向上にも繋がるので、文法事項を先に押さえておく方がよいと思う。

この作業は、説明的文章の論理構造を視覚的に表現することで、文章そのものを理解できなくても設問に対する正解を導くことができるというのが第一の利点であり、いわゆるできない生徒の長文アレルギーを緩和することを期待するものである。しかし、フィーリングで解きがちな国語の問題も実は理詰めでも説明できると理解させるのが重要であり、そこそこはできる生徒がさらに点数アップを狙うときにより効果的な方法である。